

7月2日川内1号機が営業運転 使用前官庁検査を一回でパス



今年2月ヘッダー揚げから
工事が本格化した

〔川内=7月2日〕47年10月から建設工事を進めてきた鹿児島県川内市港町字唐山の九州電力川内発電所第1期（出力50万KW）が完成し、夏期の電力需要ピークに先がけて、7月2日営業運転に入った。

当社は、ボイラを石川島播磨重工業、タービンを三菱重工業高砂製作所、電気計装を三菱電機から、また二次発注として重油受入装置を九州電力、3万トンタンク（計装を含む）2基を石川島播磨重工業、その他付属設備をメーカーから一括受注し、47年5月から先行工事として工費用電源設備に着手、同年10月には建設所を開設し工事が本格化した。以後、48年2月にヘッダー揚げ、7月に一次系水圧、9月に通電、11月に二次系水圧、49年1月に火入れ、2月に通気、3月に初併列と、大規模火力の建設としては、記録的なスピードで工程を消化し、このたびの営業運転に入ったもの。

この運開に先立ち、通産省検査官による使用前検査が行われた。6月29日に電気関係耐圧テスト、6月30日に安全弁テスト、総合インターロックテスト、密封油保護装置テスト、7月1日に調速機テスト、四分の四負荷遮断テスト、そして最終日7月2日に公害関係測定テスト、負荷テストなど関係試験が繰返されたが、一カ所の不良もなく、同日16時すべてを終了した。

この運転開始によって、唐津3号機につづき九州電力2番目の単基容量50万KW発電所の完成となり、南九州初の大規模電源が誕生した。

なお、発電所設備の概要は次のとおり。

○汽缶

放射再熱式貫流ボイラ、使用燃料重油および原油

○汽機

反動車型四流排気式再熱復水型タービン、定格出力50万KW

○発電機

横置円筒回転界磁型同期発電機、出力55万6,000KVA、電圧1万8,000V

○主変圧器

屋外用防音室構造冷却器別置型、容量54万KVA

○集塵装置

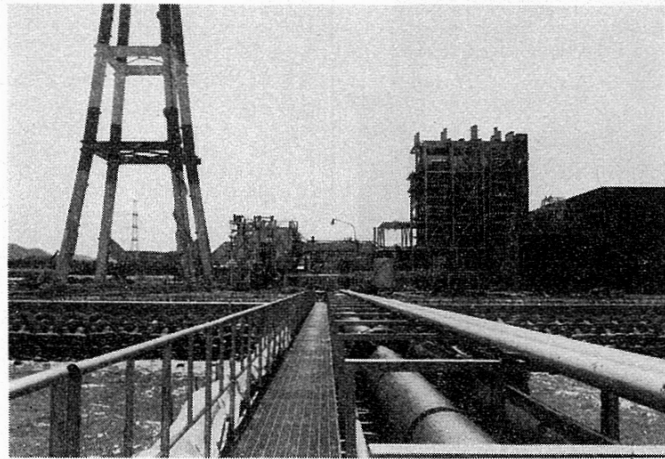
電気式集塵器

○預油設備

6万KL2基（預油タンク）、5千KL1基（低硫黄重油タンク）

○煙突

鋼板製集成型200メートル



営業運転を開始した川内1号機全景

当社 保 修 体 制 に 入 る 事 務 所 も 移 転

営業運転開始と同時に、発電所建設を担当してきた当社川内建設所は廃止となり、7月3日付で川内事業所が設置され保修体制に入った。事業所長には、引き続き速水所長が発令された。

また、事業所の設置にともなって事務所の移転が行われた。

移転先は、発電所に一段と近接し背後は松林に囲まれた広さ1,518平

方メートルの敷地で、ここに事務所をはじめ倉庫、車庫が設置されている。事務所は、解体した松風寮1棟の材料が再利用され、軽量鉄骨プレハブ構造の2階建。1階は事務室、会議室、従業員控室が設けられ、2階は協力業者の詰所となっている。また、敷地内の空地は、20台収容の駐車場に利用される。